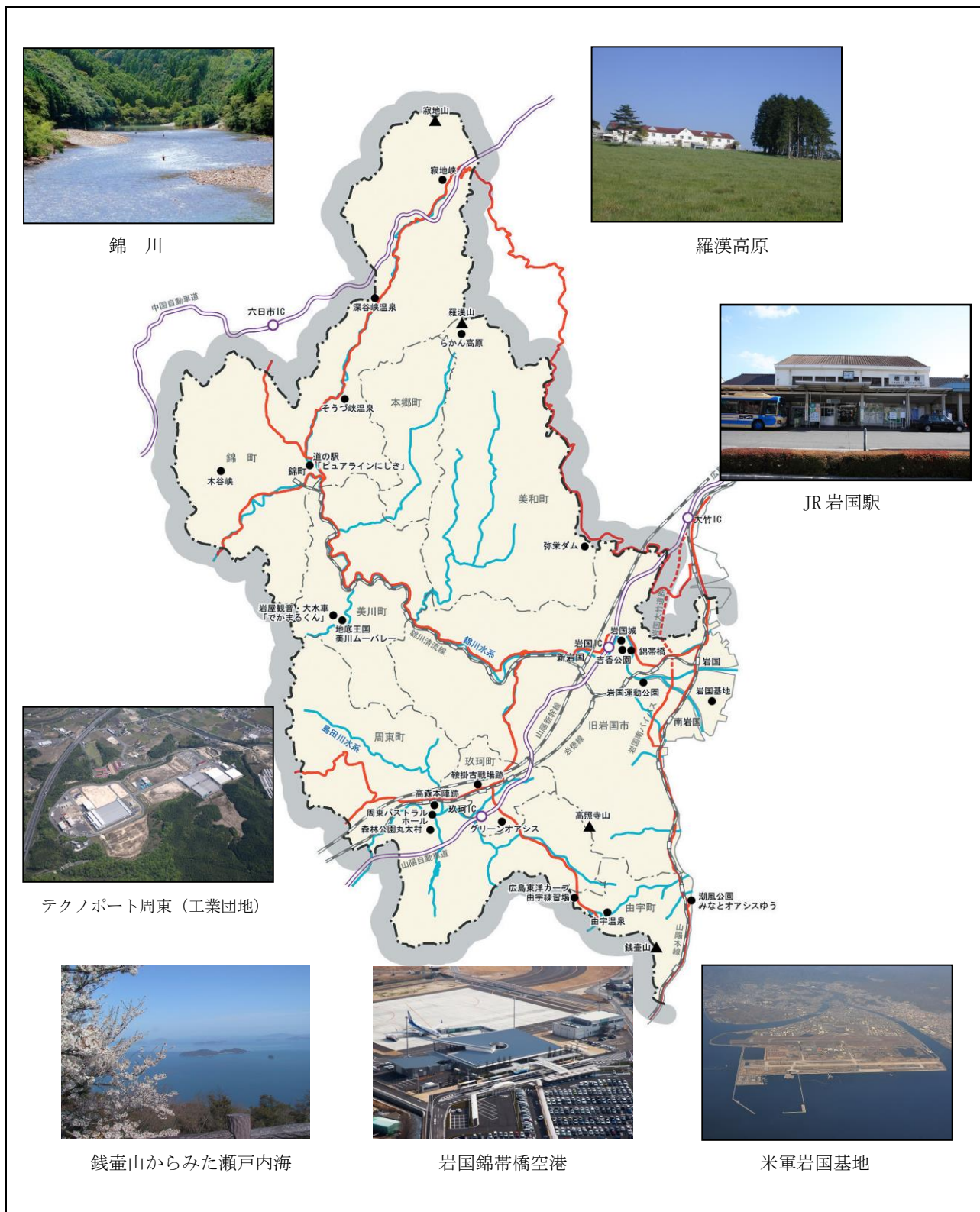


○ 基本計画の名称：岩国市中心市街地活性化基本計画

○ 作成主体：山口県岩国市

○ 計画期間：平成 26 年 11 月から平成 32 年 3 月まで（5 年 5 ヶ月）

1. 中心市街地の活性化に関する基本的な方針



[1] 岩国市の概要

岩国市は、山口県東部に位置し、北部は島根県、東部は1級河川小瀬川を挟んで広島県、南部は柳井市及び光市、西部は周南市に接する人口約14万2千人、総面積873.85平方キロメートルの都市である。

平成18年3月20日に岩国市、由宇町、玖珂町、本郷村、周東町、錦町、美川町及び美和町の8市町村が合併し、県内で2番目の面積を有する市となった。

本市の中心地域は、公共交通機関の結節点であるJR岩国駅があり、広島市の中心地域からJR山陽本線を利用して約1時間の距離にある。市営バスも中心地域から周辺地域に網の目のように走り、日常の交通手段として重要な役割を果たしている。また、この地域は、行政や各種産業の都市機能が集積し、本市の中心的な役割を果たす市街地を形成している。

明治期以降、沿岸部に化学、繊維、パルプなどの基礎素材型工業が集積し、瀬戸内海臨海工業地帯の一翼を担う多様な工業都市として発展してきた。また、南西部に位置する山陽自動車道の玖珂インターチェンジ周辺には、交通の利便性を活かした内陸型の工業団地が形成されている。

岩国基地は、昭和15年に岩国海軍航空隊として開設されたが、終戦後は国連軍が駐留してこれらの空軍基地となり、昭和27年から昭和39年までは民間空港として使用されるなど幾多の変遷を経て、現在、米国海兵隊基地となっている。また、昭和48年には海上自衛隊第31航空群が設置され、国内最大級の航空基地となっている。

本市は、名勝「錦帯橋」をはじめ、岩国城、寂地峡、美川ムーバレーなどの観光資源に恵まれ、毎年300万人以上の観光客が訪れている。また、錦帯橋や城下町の名残を持つ町並み等、歴史と文化の薫り漂う文化的景観を世界文化遺産として登録されるよう取り組んでいる。

現在、山陽自動車道や平成24年12月に開港した岩国錦帯橋空港などの交通利便性を活かした企業誘致に力を入れるなど、平成の大合併により新しく生まれた岩国市は、工業のまち、基地のまち、観光のまち、そして、山陽路の交通要衝のまちとして、隣接する広島都市圏と連携しながら、県東部の中核都市を目指している。

<工業>



<基地>



<観光>

